

### ニュージーランド研修で マオリ族の恋物語を 英語で熱演

2017年度の江戸川大学ニュージーランド研修1 には全学部・学科から総勢121名の学生が参加した。行った。終了日前日の11日の卒業式には、お世話になっ そのなかで、マス・コミュニケーション学科の学生43 たホストファミリーを招いて、感謝を込めて英語劇を 名は、8月26日から9月12日の18日間、オークランド 披露した。(取材・文: 増田朱音)



上: 霧を作りに行くヒネ・ポコフランギを引き留めるウイヌク。中: 楽器隊と神々。右: 再会したウイヌクとヒネ・ポコフランギ。下: 終演後の挨拶。



学生たち全員で演じたのは、ニュージーランドの先住民マオリ族に伝わる恋物語『RAINBOW OVER AOTEAROA』だ。和訳する「虹の彼方に白く長い雲がたなびく国。雨の降る日が多く、虹をよく見るニュージーランドらしいタイトルだ。」  
村人の青年ウイヌクと霧の女神ヒネ・ポコフランギが出会ってすぐに求婚したり、どういわけか村人たちが鰻にこだわっていたりと、ロマンスとコメディのバランスが面白いストーリーだ。  
予想しなかったことが、小道具の鰻のぬいぐるみや女神のステッキが子どもたちに好評で盛り上がり、村の子もたち役として飛び入り参加する子も現れ、一緒に歌って踊った。ニュージーランド人のノリの良さを体感した。  
ウイヌクを演じた濱田知音さんは、喜怒哀楽をきちんと表現することを心掛けて演じたという。「練習時

間はとても短く、独りでいうセリフが多かったため、プレッシャーがあっても大変だった」と語った。  
演劇経験がある濱田さんは、仲間立ち位置やセリフの言い方などのアドバイスもしていた。  
ヒネ・ポコフランギを演じた北村愛恵さんは、台本を日本語訳にして意味を理解してから、ニュージーランドのドラマなどをみて練習した。「ウイヌクから去るシーンの『Never Never Again』はとても上手くいったと思います」と満足気だ。  
ウイヌクとヒネ・ポコフランギを引き離すヒネ・ワイを演じた磯部珠緒さんは、「怒る演技をする時に表情に力を入れました。似たセリフが多く、間違えそうになって焦りました」と話す。  
拙い英語でも、ぜひ楽しんでもらいたい仲間と一緒に練習した。その気持ちはニュージーランドの人たちに伝わったようだ。難しいと感じていた英語が、面白く身近なものとなった。